

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に、「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から一歩前へ踏み出し、現状を少しでも前に進めるという意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、

- (1) 意欲と高い志をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。
- (2) 授業・行事・部活動に臨む際の集中力と自主性をより一層高める。
- (3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

ことをめざす。

そのために、学校総体として、生徒一人一人の基礎学力や学習意欲の向上、規範意識や相互の人権尊重意識の向上、充実した内容の教育課程の編成、部活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実等、上述のめざす生徒像を実現するための学校力を常に向上させることのできる学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成、「魅力ある授業づくり」の推進

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取り組みについても研究を進める。
 - ※ 学校教育自己診断等における生徒の「授業への満足度」(平成25年度64%)を毎年引き上げ、平成26年度には70%、平成27年度には75%にする。また、「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率(平成25年度42%)を毎年引き上げ、平成26年度には45%、平成27年度には50%にする。

2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立、地域連携の推進。

- (1) 人権教育、キャリア教育の指導計画を確立・充実をめざす。
 - ア 人権教育、キャリア教育ともに「3年間を見通した計画」への改善に取り組み、平成27年度に計画を完成する。
 - ※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率(平成25年度44%)を平成26年度には50%にし、その後徐々に引き上げ、平成27年度には55%にする。
 - ※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度」の生徒の肯定率(平成25年度36%)を平成26年度には40%にし、その後徐々に引き上げ、平成27年度には45%にする。
- (2) 生徒の希望進路実現への取組み
 - ア 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。
 - ※ 年度当初の4年制大学進学希望を維持させるためと確実な就職指導のもと、生徒の希望進路実現率を平成26年度には、4年制大学75%(平成25年度69%)、就職90%(平成24年度83%)にする。その後徐々に引き上げ、平成27年度にはそれぞれ80%、100%をめざす。
- (3) 地域連携の取組み
 - ア 授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすことにより、本校の理解を深めてもらう。
 - ※ 学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率(平成25年度36%)を平成26年度には40%にし、その後徐々に引き上げ、平成27年度には50%にする。

3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上

- (1) クラブ加入を促進する。
 - ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。
 - ※ 1年生のクラブ加入率・退部率(平成25年度は順にそれぞれ69%、0%)を平成26年度にはそれぞれ75%、0%にし、平成27年度にはそれぞれ80%、0%にする。
- (2) クラブ員のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上に取り組む。
 - ア クラブ代表者会議やクラブ員集会を定期的で開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。
 - イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。
 - ※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率(平成25年度は順にそれぞれ47%、51%)をいずれも平成26年度には55%にし、平成27年度には60%にする。

4 教育相談機能のさらなる充実

- (1) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能をさらに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒の自立を支援できる体制をより一層確立する。
 - ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することをより一層徹底する。
 - イ SCの延べ30回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。
 - ※ 学校教育自己診断における「学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」「先生は生徒が困っていることに真剣に対応してくれる」「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率(平成25年度は順に47%、39%、40%、40%)をいずれも平成26年度には50%をめざし、その後徐々に引き上げ、平成27年度には55%にする。

5 国際理解教育の推進

- (1) 国際交流委員会を活性化し、国際交流・国際理解教育を推進する。
 - ア 具体的な取組みとして、他の府立高校と合同で海外語学研修を平成26年度計画している。
 - イ 近隣の大学と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。
 - ※ 学校教育自己診断において、「国際交流の充実度」に関する項目をあげ、今年度の海外語学研修を実施する中で、生徒・保護者の関心度を確認したい。

6 学校説明会・中学校訪問及び広報活動の充実

- (1) 学区撤廃による影響を的確に把握しながら、学校説明会・中学校訪問や広報活動(特に、広報誌やホームページ)の充実を図る。
 - ア 学校説明会・中学校訪問については、学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。
 - イ 広報内容の充実。
 - ※ 平成26年度以降、中学校訪問の範囲・回数が増加、学校説明会への参加者数を増加させる。
 - ※ ホームページを通じての効果的な情報発信を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒、保護者、教職員対象に実施。生徒の有効回答率 95.4%、保護者 34.5%、教職員 64.7%であった。</p> <p>【総合】 [] は昨年度</p> <p>○「学校が楽しい」「自分の学級が楽しい」という満足度に関する質問に対し、肯定的な回答は、それぞれ約 70%あり、ほぼ評価できる。反面、否定的な意見も 2 割を超えている。本校の特色・魅力づくりが課題だと認識しているが、まだまだ取組みの不足を痛感する結果となった。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>○生徒の生活基本調査では、「授業への満足度」は 64% [70%]、「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率は 43% [42%] であり、ほぼ一定化している。また、「発表の機会がある」「ICT を使う機会がよくある」の生徒の肯定率がそれぞれ 43%・35% と昨年より、肯定的意見が下がってきている上に、否定的な意見も 50%を超えている。一部の教員が工夫しているのみで、まだまだ授業向上に努力の余地がある。また、ICT に関しては、設備が充実できていないので、教員も使いにくい状況にある。設備の充実も課題である。</p> <p>○「授業の私語や居眠りなどなく、まじめに取り組む」に対し、肯定的な意見 70% [71%] で微減している。</p> <p>○「他の先生が授業を見学に来ることがある」の肯定的な意見 41% [49%] となり、昨年より教員間の授業交流が少なくなっている。 教員間の授業研修会がしっかり機能できなかったことが要因であろう。</p> <p>○授業全般に関して、生徒の状況が大きく反映される。生徒と教員双方の努力が必要なのは言うまでもない。また、教員は生徒の肯定感よりも、否定感を減少すべく教材研究等が必要不可欠になる。 また、教員が教材研究に十分時間がかけられるよう、校務内容を見直し、学校システムの合理化・時間の短縮化を図る必要がる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○生徒指導で特筆すべきが進路指導であり、「HRでの進路・生き方の機会がある」「進路の情報を知らせてくれる」「奨学金の情報を知らせてくれる」の肯定的な意見がそれぞれ 61% [66%]、68% [73%]、69% [58%] とする肯定的である。今後も維持継続したい。</p> <p>○部活動では、「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的な意見が、65% [68%] と高いレベルを保っている。</p> <p>○教育相談体制についても十分配慮されており、生徒の「担任以外で保健室や相談室等で気軽に先生やスクールカウンセラーに相談することができる」の肯定的な意見 43% [40%] であり、教職員でも肯定的な意見 88% [91%] を維持しており、充実度が際立っている</p> <p>【学校運営等】</p> <p>○「校長のリーダーシップが発揮されている」の教職員の肯定的な意見 41% [53%] であり、さらに「学校運営に、教職員の意見が反映されている」の教職員の肯定的な意見 48% [70%] であり、教職員に対する「職員会議規程」の見直し（議決権なし）や「校内人事に関する規約」の改定（任命制）による影響が考えられ、今後より一層の喚起を促せるようにマネジメントを発揮したい。</p> <p>○国際交流については、今年度 1 ヶ月間留学生を受け入れたことや今年度から、オーストラリアとの交換留学制度が生徒たちに影響を与え、「国際交流について学ぶ機会がある」は肯定的意見が 35%であった。 今後もグローバル社会に向かっている現代社会の中で、本校生徒たちに国際交流に目を向けさせず取り組みをしたい。</p>	<p>第 1 回 (6/24)</p> <p>第 1 部 報告 ○H26 年度学校経営計画の概要説明 第 2 部 協議</p> <p>◎協議：テーマ …… 大冠高校の生徒指導について ☆服装指導について ☆登下校のマナー・自転車について (「第 1 部の報告」を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 部の報告より、クラブ活動での生徒の頑張りや成果によって生徒と教師との信頼が厚くなり、学校全体が盛り上がっている印象が感じ取れる。 ・国際交流の盛り上がりについて、今後もグローバルな取り組みを希望する。 ・『交通マナーを守る』と生徒指導だが、スマホを見ながら、音楽を聞きながらの運転など、自転車マナーが非常に悪い。生徒への見守り・声かけが大切である。 ・まず、今回の会議は事前に配布し、一読できるよう配慮してもらいたい。大冠高校の生徒の服装は以前より良くなった印象である。自転車マナーに関しては、私たちが立って見ているところではルールを守って走行しているが、見ていない場面ではどうなのだろうか。 ・3 月末のマッシュルーム・コンサートで竹の内地域の方々に出演の機会を設けていただき、地元地域の皆さんは大変喜んでいただけた。地域連携に関しては大冠高校の取り組みは大いに評価できる。 ・ホームページは度々拝見しているが、情報をタイムリーに提供していくことは先生方にとって非常に煩雑な作業に思われる。外部に委託するのがひとつの良い案だと思う。 ・あいさつ、服装に関しては企業の人間の立場からみると、まだまだ不十分な印象がある。学校協議会の内容を報告の形でホームページにアップすべきである。 ・生徒にとって高校 3 年間で将来を見定めるのはなかなか容易なことではない。3 年になっていきなり進路選択を迫るのではなく、1・2 年の時から進路目標や目的意識を持たせつつ、計画的・継続的に進路指導をするようにすべきである。 ・私も『夢』や『希望』が『やる気』を生み出すと思っている。3 年になってからではなく、1 年から学校側で校外学習のような形で大学見学等を体験できる機会・企画をお願いしたい。 ・自転車通学・自転車マナーについては、やはり常に心配で、ヒヤリとする場面を目のあたりにすることも。先ほども話題に出ていたが、自転車通学者には自転車保険への加入を義務づけてはどうか。また、警察等に講師を依頼し、交通安全マナーの講習会を 4 月当初に受講させてほしい。この 2 つの条件をクリアしないと自転車通学は許可しないぐらいの方針でよいと思う。 ・「本日のまとめとして締めくくらせていただくと、ちょっとした達成感を大切にしたいと思う。日々のわずかな充実感の積み重ねが大きな成果につながっていく。ウイル・パワー (Will Power) を大冠高校でも生かしてもらえればと思う。」 <p>第 2 回 (11/18)</p> <p>第 1 部 報告 ○H26 年度学校経営計画の進捗状況 第 2 部 協議</p> <p>◎協議：テーマ …… 大冠高校の生徒の保健室利用について (保健室来室状況・事故発生状況 状況説明など)</p> <p>☆保健室の来室・病院搬送が多い事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での意見より…念のため病院に連れて行く。「連れて行かなかった」というクレームが出る場合もあるので、回数が多くて割り切らなければ仕方ない。また、曜日ごとの事故発生件数では、木曜日が多い場合、朝の連絡で、教員がクラスに注意喚起すれば、事故件数が減少しやすいとのことなので、大冠でも、参考に実施したい。データ化、分析、予測も重要だが、一番大事なのは「目視」・「声かけ」であり、1 年生が 6 月に学校に慣れてくる。9 月には夏休みの過ごし方による生活の崩れがある。など、例年の減少を参考にし、予測して指導することも必要である。生徒指導面では、6 月頃は男子の問題、9 月頃は女子の問題が増加する。気になる生徒については、ケース会議を開いて対応する。専門家に頼りすぎず、教職員の意識を高めることが必要である。 ・第 1 部で報告のあった、クラブ員ミーティングでの問題提起は有効ではないか。部長会議で意識を高め、生徒主体で進めていくのが良いと考える。 ・企業での話より… 労働災害・交通事故ゼロを目標とし、交通事故は発生した曜日・時間帯などを分析する。労働災害は、事故の原因・対策をメールで会社に報告する。分析結果を掲示し、見た者にはチェックさせて確認をする。・企業では安全衛生委員会を開いて、事故状況の調書を取り、分析し、提示する。「事故がどのような状況で発生したのか？」という情報を生徒に提供することにより、事故は減らせる。大冠も分析結果を視覚化して注意を促すことを取り入れたらどうか。 ・6 月は体育祭があり、疲労がたまる。9 月は夏休み明けで暑いということもあるが、文化祭の活動におけるクラスの人間関係の悩みによる心の疲れも原因している。内科的というよりも、精神的な相談が多い。 <p>☆教育相談の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での意見より…保健室来室数の多い生徒を拾い上げ、場合によってはケース会議を開き、個別の支援計画を考える。中学校では、年に 2 回、担任・副担任で協力して、全生徒との面談を実施している。 ・学校の意見…教員と生徒との懇談の機会を増やせば保健室へ行く回数が減少する場面が多いので、本校も参考にしたい。保健室の位置づけは非常に重要である。生徒と担任とをいかにつなぐかがポイントだと考え、養護教諭の働きやすい環境づくりも行いたい。

第3回 (2/12)

第1部 報告

- H26年度学校教育自己診断、及び学校経営計画の評価について
 (全体説明)「平成26年度学校教育自己診断結果」、「平成26年度学校経営計画の評価」(校長)
 (各係説明)・「学校説明会・学校見学会」の報告
- ・「学校教育自己診断」、および「生活基本調査」の集計結果について
 - ・「現在の進路決定状況」他、進路指導に関する報告
 - ・「部長ミーティングに向けての取り組み」(中原生徒会部長)

第2部 協議

◎協議：テーマ ……「大冠高等学校のアドミッションポリシー（求める生徒像）について（「第1部の報告」を踏まえて）

※「Q」は委員からの質問、「A」は事務局等からの回答、「O」は委員からの意見・提言等をそれぞれ表す。

- Q 昨今、文部科学省から各学校のアドミッション・ポリシーを打ち出し、求める人物像を明確にすることが言われているが、大冠高校の場合はどうか。
- A 学校教育自己診断に関して、「大冠高校には他校にない特色がある」の項目の肯定的回答が61%（H25）→53%（H26）になった点に注目している。平成28年度入学者選抜からの制度変更に伴い、ボーダーゾーンについては、「自己申告書」・「調査書の内容」・「高等学校のアドミッション・ポリシーに一致」という観点を重視して合格者を決定するという方針が示されている。学校の特色をもっと出すこと、「求める生徒像」を明確にすることが肝要である。今回の協議会では各委員からご意見を伺うこととして、来年度初めには本校のアドミッション・ポリシーを出す。
- Q ボーダーゾーンの選抜方法について、他校の様子はどうかを伺いたい。
- A まだ、お伝えするような情報は入っていない。校長の間でも、どうすべきものかと話している段階で、手探り状態である。
- O 地域連携の取組みに関して、吹奏楽部・和太鼓部などの部活動との連携は盛んであるが、授業や生徒会活動での連携はほぼ皆無である。地域連携の取組みをもっと広げていく一例として、通学途中の大冠生の自転車の運転が非常に危険に感じるのだが、生徒会役員の生徒に地域の会合に出てもらい、顔と顔をつき合わせて話す機会を持つことなどは良いのではないか。
- O 卒業後の進路について追跡調査を実施して、今後の大冠生徒の進路実現、進路指導のためのデータとして生かしてほしい。スクールカウンセラーの来校回数が来年度から減少する件に関しては、相談したい生徒・保護者が行きたいときに行けるかが心配である。学校教育自己診断の結果に関しては、「生徒が自分で分かっているのに自分で進んでできない」、つまり、自主自立の精神に欠けている。この点を改善して、大冠高校の特色をもっと打ち出してほしい。
- Q 大冠高校の生徒像や学校像は、現状ではどのようなものか。
- A 素直で、おとなしい生徒が多い。様々な生徒が学び、高校生活を送っている、いわゆる公立高校らしい「普通の」学校というイメージである。
- O アドミッション・ポリシーの観点から、中長期的にどのような生徒を育てたいのかについて議論を深めてもらいたい。国際理解教育(英語教育)の推進、自主自立を目指した「生徒会活動」・「ボランティア活動」の充実、部活動の活性化など、大冠高校には様々な面から、大きな「伸びしろ」があると言える。これを今回の協議会のまとめとしたい。

府立大冠高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成、魅力ある授業づくりの推進	(1)「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取組み ア 授業改善に資するための取組みの検討 イ 公開授業を活用した授業改善の推進 ウ ICTを活用した授業の推進	(1) ア・25年度は、指導教諭が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、充実したものとなった。今年度も内容を検討し、継続する。 ・授業改善に資するための教員の校内研修を充実させる。 イ・公開授業(6月)を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。 ウ・ICT活用等を活用するなど、生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目を主に各自のレベルアップを図る。	(1) ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。 ・校内研修実施回数2回。 イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数40以上。 ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」70%(平成25年度64%)、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率45%(平成25年度42%)。 ウ・自己診断における「授業へのICT活用」の生徒の肯定率45%(平成25年度42%)。	(1) ア・26年度は、行内研修として一回目を5/22教育センターに依頼し「魅力ある授業づくり」、二回目は「しゃべり場」と称する有志教員が自主的な研修を実施し、授業に加え学校運営の内容となった。(○) イ・目標を達成するとともに、6月の公開授業は、保護者主体で意見を求め、11/17~21の週間は、教員間の研修として実施した。特に新任教員は、その後の研究協議も実施し、授業力向上に役立てた。(◎) ・「授業への満足度」65%(平成25年度64%)、「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率43%(平成25年度42%)。微増であった。(○) ウ・自己診断における「授業へのICT活用」の生徒の肯定率34%(平成25年度42%)。(△)
2 夢と志 目的意識(地域連携)を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立、地域連携の推進	(1)人権教育、キャリア教育の確立 ア 本校としての人権教育の「3年間を見通した計画」の策定・実践・改善・充実 イ キャリア教育の充実を図る (2)生徒の希望進路実現への取組み ア 進学主坦の設置 イ 具体的内容の検討 (3)地域連携の取組み ア 授業、クラブ、生徒会等における地域連携への取組み	(1) ア・人権教育企画委員会(略して「人企委」)の議論を活性化し、本校としての人権教育の「3年間を見通した計画」を策定し、実践する。そして、適宜見直して改善・充実を図る。 イ 進学も含めた将来の生活設計を考えるため、キャリア教育の充実を図る (2) ア・進路指導部に進学主坦を置くことにより、学年を越えた進学指導を計画的に実現していく。 イ・生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、充実を図る。 (3) ア・授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすことにより、本校の理解を深めてもらう。	(1) ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率50%(平成25年度44%)。 ・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率50%(平成25年度43%)。 イ・自己診断における「キャリア教育充実度」の生徒の肯定率45%(平成25年度36%)。 (2) アイ・生徒の希望進路実現率を4年制大学75%(平成25年度69%)、就職90%(平成25年度83%)にする。 (3) ア・自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率45%(平成25年度36%)。	(1) ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率48%(平成25年度44%)。(○) ・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率43%(平成25年度43%)。さらに、職員研修として「発達障がい理解とその対応」を実施した。(○) イ・自己診断における「キャリア教育充実度」の生徒の肯定率34%(平成25年度36%)。(△) (2) アイ・進路指導部長が進路主坦を兼務し、結果を残した。生徒の希望進路実現率を4年制大学69%(平成25年度69%)、就職83%(平成25年度83%)にする。(◎) (3) ア・自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率37%(平成25年度36%)。(△)
3 部活動の活性化及びリーダーシップによる生活規律の向上	(1)クラブ活動の活性化 ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み イ 指導者の確保と校内での重点クラブの指定 ウ 活性化策を検討 (2)クラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上 ア 生徒自ら生活規律の向上を図る方策の検討	(1) ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 イ・重点クラブ(運動・文化各1クラブ)の指定により、人的及び予算面で配慮し、効果をあげる。 ウ 活性化策を検討 (2) ア・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。	(1) ア・1年生のクラブ加入率75%、退部率0%(平成25年度は順に69%、0%) イ・予算の傾斜配当・場所確保等 ウ・クラブ代表者会議での生徒要望の集約(各学期1回) (2) ア・クラブ代表者会議において、生徒による生活規律の向上を検討。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率55%(平成25年度は順に47%、51%)。	(1) ア・部活動活性化のため少人数クラブ対策に取り組んだ。 ・1年生のクラブ加入率69%、退部率0%(平成25年度は順に69%、0%) (○) イ・代表者会議で議論の結果、クラブを指定せず有効活用できた。 ウ・クラブ代表者会議での生徒要望の集約(各学期1回) (◎) (2) ア・生活規律の検討は、十分とは言えなかったが継続課題とする。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率48%、54%(平成25年度は順に47%、51%)。(○)
4 教育相談機能のさらなる充実	(1)教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア 教職員へのカウンセリングマインドの徹底 イ SCの学校訪問回数の確保及び相談室の利用の促進	(1) ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接することをより一層徹底する。 イ・SCの相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。	(1) ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率50%(平成25年度40%)。 イ・SCの教育相談内容を可能な限り教職員で共有、さらに延べ30回の学校訪問回数を確保	(1) ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率43%(平成25年度40%)。(○) イ・新たな課題も発生し、SCの教育相談が十分機能し、有益なものとなった。延べ30回の学校訪問回数を確保できた。(◎)
5 国際理解教育の推進	(1)国際交流委員会の活性化及び国際交流・国際理解教育の推進。 ア 具体的な取組みへの着手 イ 今後の方向性	(1) ア・国際交流の推進として、近隣の府立3校合同でオーストラリア語学研修を計画・実施予定である。 イ・海外での研修だけでなく、近隣の大学と日常でも交流できる場を検討する。	(1) ア・語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者5人以上。 イ・アンケートに「国際交流の充実度」に関する項目を追加。	(1) ア・生徒4・教員1の体制で参加し、報告会などを通して、次年度への繋ぎとなった。(○) イ・近隣の大学と実質的な交流の場はなかったが、勉強合宿を大学で実施している。アンケートに「国際交流の充実度」に関する項目を追加。肯定率35%。
6 学校説明会及び広報活動の充実	(1)学校説明会・中学校訪問や広報活動の充実 ア 学校説明会・中学校訪問の充実 イ 広報内容の充実	(1) ア・学区撤廃による影響を的確に把握しながら、地元高槻はもとより、枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。 イ・広報活動を効果的なものにするためのコンテンツの充実を図る。部活動の広報のため、各クラブに広報係を置く。	(1) ア・学校説明会への参加者数の増加。(平成25年度340人) ・中学校訪問の学区撤廃による範囲及び回数増。(平成25年度枚方9校各1回) イ・ホームページの改善するため教職員のチーム設置する。(3人)	(1) ア・学校説明会(10/25)への参加者数は、273人だったが、他の説明会・見学会の参加増加が目立った。(平成25年度340人) (○) ・認知度を上げるために大冠で説明会を実施すべきとの中学校の意見を取り入れ、説明会・見学会等の周知徹底に方針変更した。 イ・30周年記念事業の一環として、ホームページのリニューアルにチーム8名で取組み年度内に仕上げ予定である。(◎)